

ごあいさつ

このたびは追手門学院大学附属図書館宮本輝ミュージアムにご来場いただき、誠にありがとうございます。
ございます。

宮本輝ミュージアムは、2005年5月、追手門学院大学安威キャンパスの附属図書館内に開設されました。ここには、宮本輝氏の全面的な協力の下、直筆原稿や初刊本、万年筆、筆、硯などの愛用品、映像化作品のアーカイブなど、約800点の貴重な品々が収められています。ミュージアムでは、これら収蔵品を中心とする常設展示に加え、年に二度、さまざまな企画展を行ってきました。

2020年は、開設15周年にあたります。これを記念し、本年度前期の企画展は、「宮本輝ミュージアムのあゆみ」と題して、これまでの企画展のパネルなどの展示を行い、これまでの歩みを振り返りたいと思います。

また、昨年2019年6月30日の追手門学院大学ホームカミングデーで行われた「対談」の中で、氏は、学生時代に読んでほしい作品、氏ご自身が愛読していた作品などを、学生たちへの「推薦図書」としてお示しく下さいました。これらの作品も同時に紹介しています。そこには、氏の作品の源泉が窺えるかもしれません。

精力的に作品を発表され続ける作家の活動を、同時進行で追いかける宮本輝ミュージアムには、過去の作家を顕彰する文学館の役割とは相違して、作家の現在進行形の活動の躍動感をも伝えるという、困難でありかつ魅力的な使命があります。宮本輝ミュージアムの展示の変遷は、宮本輝文学の俯瞰図の変遷でもあります。

宮本輝ミュージアムの15年のあゆみをとおして、本学と、現代日本を代表する作家宮本輝氏との深いつなかりを、改めてお知りいただければと思います。

今回の企画展に際しまして、多くの方々のご協力をいただきました。関係各位の多大なるご協力に感謝し、この場を借りて深くお礼を申し上げます。

宮本輝ミュージアム

プログラムディレクター 真銅正宏
(追手門学院大学国際教養学部教授)